

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
主任部長兼診療局次長 兼 ICU/CCU 部長 兼医療安全管理室副室長 兼心臓・血管センター長	船津 俊宏
部 長	良本 政章
医 長	横山 淳也
医 員	西條 史祥 (9月退職)
医 員	石津 寛治 (10月入職)

—概要—

心臓血管外科では、冠動脈疾患、弁膜症、大動脈瘤、弁膜症合併不整脈、下肢閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤など、心臓大動脈、末梢血管を中心とした多様な病変に外科治療を行っている。近年、こうした循環器疾患の治療を要する患者は、高齢化、他疾患の合併などから、ますます病態は複雑化し、ハイリスクとなっている。これらの患者に対して、単に手術を行って生命予後を改善するばかりではなく、術後の活動性や生活の質を保つことも重要な課題である。われわれは、心臓・血管センターの一翼として、循環器内科、看護師、薬剤師、リハビリテーション療法士、臨床工学士、栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多職種と連携し、急性期診療に取り組んでいる。また慢性期の日常臨床においては、かかりつけである地域の先生方と密に連携し(病診連携、病病連携)、退院後の全身状態の把握や管理に努めている。

当科では、従来の冠動脈バイパス手術、弁膜症手術、大動脈、末梢血管手術に加え、大動脈ステントグラフト治療も高齢者中心に定着した。また当院で対応困難な、経カテーテル大動脈弁置換や重症心不全の患者に対する植込み型補助心臓等については、大阪大学関連施設への橋渡しを行っていく。

—実績—

2021年度に、りんくう手術室および救命手術室でおこなった全手術数は、162件であった。開心術およびその他の内訳を以下に示す。

冠動脈疾患	20例*
弁膜症	58例*
MICS手術	9例
胸部大動脈瘤(開胸手術)	22例*
胸部ステントグラフト内挿	4例
急性大動脈解離	5例*
心筋症、その他開心術	4例
末梢血管手術	19例
腹部大動脈瘤(開腹手術)	21例

腹部ステントグラフト内挿	7例
その他手術	27例

*重複あり

—今年度の成果と反省点—

今年度は、手術の低侵襲化の一環として、右小開胸による僧帽弁手術(いわゆるMICS手術)を導入し、すでに9例に実施した。

今年度も従来の予定、緊急の心臓血管外科手術に加え、救命救急センターへ搬送された外傷症例にも積極的に対応し、救命診療科医師と連携して手術を行ってきた。

学術的には、学会発表は依然コロナ禍で主要学会がウェブ開催となった。今年度は論文発表ができたが、量的には不十分であった。

月1回救命救急センターと心臓・血管センターの合同カンファレンスを、また週1回心臓・血管センターカンファレンスを行い、連携を深めるとともに、多職種が意見交換できる症例の検討会を行っている。

—来年度への抱負—

大動脈疾患に対するステントグラフト治療や僧帽弁逆流に対するMICS手術をさらに増やし、ひいては手術症例数の増加を図りたい。また学術面でも、学会発表や論文活動の充実に努めたい。

